

| | | | | | |
|---------|----------------|--------|--------|-------------------------------------|---|
| 科目名 | 看護理論 | | | 担当教員：○金城 祥教・鈴木啓子・稲垣絹代・金城やす子・安酸 史子 | |
| 科目名(英語) | Nursing Theory | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 6 | 研 409 (金城) 看護学科事務室 (非常勤講師室) (安酸) | 火曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限 授業の前後 30分ずつ |

1. 授業の概要：

この科目では看護理論の批判的(クリティーク)分析や看護実践への有用性に焦点をあてる。看護学の知識体系の構築の知識を踏まえ、理論、実践、研究の関連について評価を行う。また看護実践のための科学的知識の開発に関する多様な方法により、より高度な看護実践に向けた知識の形成のために活用する。この内容についてはプレゼンテーションを中心に参加型の授業を展開する。

2. 到達目標：

- (1) 看護理論の発展過程と歴史的背景を理解する。
- (2) 専門職としての看護における理論の意義を理解する。
- (3) 主な看護理論とその概念を説明し、分析し、臨床実践や教育・研究への適用について理解する。

3. 授業の計画

| | | |
|--------|----------------------|---------|
| 第 1 週 | 看護の変遷(看護学の発展)と看護理論 | (金城祥教) |
| 第 2 週 | 理論の構成概念(理論分析と評価) | (金城祥教) |
| 第 3 週 | H. ペプロウの看護理論 | (金城祥教) |
| 第 4 週 | D. オレムのセルフケア看護理論 | (鈴木啓子) |
| 第 5 週 | オレム・アンダーウッドセルフケア看護理論 | (鈴木啓子) |
| 第 6 週 | F. ナイチンゲールの看護理論 | (稲垣絹代) |
| 第 7 週 | レイニンガーの看護理論 | (稲垣絹代) |
| 第 8 週 | 小児期の発達理論 | (金城やす子) |
| 第 9 週 | 青少年期の心理発達理論 | (鈴木啓子) |
| 第 10 週 | 成人期の心理発達理論 | (金城祥教) |
| 第 11 週 | 老年期の生涯発達理論 | (稲垣絹代) |
| 第 12 週 | カウンセリング理論と看護 | (金城祥教) |
| 第 13 週 | ケアリング理論 その1 | (安酸史子) |
| 第 14 週 | ケアリング理論 その2 | (安酸史子) |
| 第 15 週 | 臨床の知の形成へ向けて | (金城祥教) |

4. 参考文献：

- ① F. ナイチンゲール：ナイチンゲール著作集 2巻，現代社。
- ② H. ペプロウ：人間関係の看護論，医学書院。
- ③ レイニンガー：レイニンガー看護論 文化ケアの多様性と普遍性，医学書院。
- ④ E.H.エリクソン：ライフサイクル、その完結。みすず書房
- ⑤F. ナイチンゲール：看護覚え書，対訳 うぶすな書院。
- ⑥フォーセット，大田喜久子，筒井真由美監訳 看護理論の分析と評価 医学書院
- ⑦ガートルートトレス 梶尾京子，田村やよひ 高田早苗監訳 看護理論と看護過程 医学書院

5. 準備学習：

看護論を読み、日常の看護実践の分析、理論の適応について考えて授業に臨む。また、プレゼンテーションはクリティカルシンキングを行い、準備をする。

6. 成績評価の方法：

- ・授業に対する参画(看護論をクリティークする力、プレゼンテーション、討論への積極的参加) 50点
- ・課題レポート(一冊の看護論をクリティークし論理的に書く。臨地での看護と結びつけ看護論を理解、展開する) 50点
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：必修科目である。必ず履修すること。

8. その他：

各自、事前にテキストを読み、臨地での看護についての視点の拡大、自己の気づきや患者理解など実践的に考える。

| | | | | | |
|---------|----------------------------------|--------|--------|--|--|
| 科目名 | 看護学研究方法論 | | | 担当教員：○金城 利雄 鈴木 啓子・ | |
| 科目名(英語) | Introduction to Nursing Research | | | 金城 やす子 山浦晴男 | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 6 | 研 405(金城利雄) 看研 17(鈴木啓子) 看研 10(金城やす子) | 月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限 月曜日・木曜日 7限 |

1. 授業の概要：

看護における研究の意義と特徴を理解し、研究における理論・概念枠組み、研究デザイン、方法について理解を深め、量的研究、質的研究の原則、特徴を探究する。倫理審査を受ける方法も修得し、研究論文作成の一連の研究プロセスを理解する。

2. 到達目標：

看護における研究の意義を理解し、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

| | | |
|--------|-----------------------|---------|
| 第 1 週 | 看護研究の意義と動向、特徴 | (金城利雄) |
| 第 2 週 | 看護研究の基本的なプロセス | (金城利雄) |
| 第 3 週 | 研究課題の吟味について | (金城利雄) |
| 第 4 週 | 系統的文献検索の方法 | (金城やす子) |
| 第 5 週 | 系統的文献検索の実際 | (金城やす子) |
| 第 6 週 | 研究課題と研究デザイン | (鈴木啓子) |
| 第 7 週 | 質的研究のプロセス | (山浦晴男) |
| 第 8 週 | 質的研究のプロセス | (山浦晴男) |
| 第 9 週 | 量的研究のプロセス | (金城やす子) |
| 第 10 週 | 量的研究と統計的解析 | (金城やす子) |
| 第 11 週 | 研究倫理と研究者の責務 | (鈴木啓子) |
| 第 12 週 | 研究計画書の作成に関して | (金城利雄) |
| 第 13 週 | 研究計画書に関する討議 | (金城利雄) |
| 第 14 週 | 原著論文のまとめ方 | (金城利雄) |
| 第 15 週 | 原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して | (金城利雄) |

4. テキスト：

参考文献：「看護研究 原理と方法」、監訳 近藤潤子，医学書院，
「APA 論文作成マニュアル」APA,江藤裕之他訳，医学書院

5. 準備学習：毎回、課題を提供するので、次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50 点（評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ）
- ・レポートの内容 50 点（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ）
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：

8. その他： 必修科目であり，修士論文作成のための基本になる科目のため，学生主体でプレゼンテーションを重ね，専門演習，特別研究に継続させてほしい。

| | | | | | |
|---------|------------------------|--------|--------|--|---|
| 科目名 | 看護管理学 | | | 担当教員：○金城 祥教・朴 在鎬・ | |
| 科目名(英語) | Nursing Administration | | | 鈴木 啓子・紙屋 克子・船戸 高樹 | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 2～3 | 研 409 (金城祥教) 看研 17 (鈴木啓子) 学科事務室(非常勤講師控室) (朴, 紙屋, 船戸) | 月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限 授業の前後 30分ずつ |

1. 授業の概要：

保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。

患者ケアシステムと看護専門職の状況対応リーダーシップについて、事例を通して学ぶ。さらに保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際について、現場の管理者を交えながら理解を深める。

現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスを理解し、患者ケア提供システムの改善策などについて検討する。看護専門職の役割拡大と専門分化の方向性を探索し、看護職の人材育成・キャリア開発への効果的なサポートシステムについて提言する。

2. 到達目標：

- ①看護の管理運営についての基礎的な理論を理解する。
- ②戦略的リーダーシップについての基礎的な理論を理解する。
- ③病院経営と看護部の役割を理解する。

3. 授業の計画と内容

| | | |
|--------|----------------------------------|--------|
| 第 1 週 | コースガイド (看護管理者のイメージ) | (金城祥教) |
| 第 2 週 | 患者の権利擁護と看護倫理 | (金城祥教) |
| 第 3 週 | マーケティングの基本的な概念 | (船戸高樹) |
| 第 4 週 | 非営利組織 (病院等) におけるマーケティングとは | (船戸高樹) |
| 第 5 週 | 医療サービス・マーケティングの展開 | (船戸高樹) |
| 第 6 週 | 組織マネジメントとリーダーシップ | (朴 在鎬) |
| 第 7 週 | 人間関係構築のスキル開発 (SYMLOG 分析とコーチング) | (朴 在鎬) |
| 第 8 週 | 組織の効率化とリーダーシップ (SYMLOG 分析とコーチング) | (朴 在鎬) |
| 第 9 週 | 病院経営と看護部の役割 | (紙屋克子) |
| 第 10 週 | 看護師のキャリア開発を支援する看護管理 | (紙屋克子) |
| 第 11 週 | 看護の生涯教育とコンペテンシー開発 | (金城祥教) |
| 第 12 週 | 患者中心の看護から患者参画の看護へ | (金城祥教) |
| 第 13 週 | 医療安全と暴力 | (鈴木啓子) |
| 第 14 週 | リスクマネジメント | (鈴木啓子) |
| 第 15 週 | 振り返りと自己評価—他者評価 | (金城祥教) |

4. テキスト： 特に指定しない

- 参考文献： ①陣田泰子「看護現場学の方法と成果—いのちの学びのマネジメント」医学書院
②紙屋克子「私の看護管理ノート」医学書院

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 20 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 20 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 60 点 (各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：

8. その他：

| | | | | | |
|---------|--------------|--------|------|----------------------|--------------|
| 科目名 | コンサルテーション論 | | | 担当教員： 宇佐美 しおり | |
| 科目名(英語) | Consultation | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 2~3 | 看護学科事務室 (非常勤講師控室) | 授業の前後 30 分ずつ |

1. 授業の概要

保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師としての自己研鑽のあり方を学ぶ。

2. 到達目標

- ・コンサルテーションの方法について理解できる。
- ・看護実践にとってのコンサルテーションの意義について理解することができる。

3. 授業の計画と内容

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 第 1 週 | コンサルテーションの概念およびその歴史 |
| 第 2 週 | コンサルテーションのタイプ |
| 第 3 週 | コンサルテーションの実践モデル |
| 第 4 週 | コンサルテーションの役割 |
| 第 5 週 | コンサルティとコンサルタントの関係 |
| 第 6 週 | コンサルテーションの課題 (1) 患者との関係における問題 |
| 第 7 週 | コンサルテーションの課題 (2) 看護師間における問題 |
| 第 8 週 | コンサルテーションの課題 (3) 組織との関係における問題 |
| 第 9 週 | コンサルテーションの実際：事例検討 (1) |
| 第 10 週 | コンサルテーションの実際：事例検討 (2) |
| 第 11 週 | コンサルテーションの評価 |
| 第 12 週 | 倫理的問題に対するコンサルテーション |
| 第 13 週 | 演習 (1) |
| 第 14 週 | 演習 (2) |
| 第 15 週 | まとめ |

4. テキスト・参考文献

テキスト：

- ① G.Lippitt & R.Lippitt: The Consulting Process in Action, Second Edition, Pfeiffer, 1986
- ② 宇佐美しおり・野末聖香(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，(社)日本看護協会出版会

5. 準備学習

レポート課題の提出

6. 成績評価の方法

レポート（状況の正確な記述と分析力，課題設定・アセスメントの適切さと介入方法の適切さ） 20 点
講義・演習への参画度（ロールプレイなどでのコミットメント，プレゼンテーションの適切さ） 80 点
合計 100 点で評価する

7. 履修の条件

ディスカッション形式の授業を展開するため，各自で問題事例をまとめ，レポートしておくこと。

8. その他

特になし

| | | | | | |
|---------|-----------------------|--------|--------|-------------|----------|
| 科目名 | 国際看護学 | | | 担当教員：横川 裕美子 | |
| 科目名(英語) | International Nursing | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 2 | 前期 | 2~3 | 研究室 403 | 授業内で提示する |

1. 授業の概要：

国際保健医療および看護職による国際協力活動や研究について理解することを目的に、異文化理解と国際協力活動に関する講義を行なう。国や地域を越えた自然環境の変化や災害、貧困、健康問題が増加する社会の中で、看護職の役割が拡大してきていることをふまえて、国内・国外にかかわらず医療・保健・看護の現状を理解し、人々の健康を維持・増進するための看護の課題について展望する。また異なる文化背景をもつ人々の多様なニーズを尊重した看護について考察する。

2. 到達目標：

- 1) 国や地域における健康課題、あるいは共通した新しい健康課題について理解する。
- 2) 国際協力活動の基本的な理念や開発目標を理解し、国や地域で求められる看護の機能を考察する。
- 3) 多様な文化背景をもつ対象のニーズを理解して尊重するための理論をもとに看護の展開を検討する。
- 4) 多文化共生社会における看護職の役割と可能性について考察し実践することができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 国際看護学の概念
- 第 2 週 国や地域における健康課題と看護①
- 第 3 週 国や地域における健康課題と看護②
- 第 4 週 国際協力活動の基本的な理念・開発目標
- 第 5 週 文化を尊重した看護理論①
- 第 6 週 文化を尊重した看護理論②
- 第 7 週 文化を尊重した看護理論③
- 第 8 週 看護の国際協力活動①
- 第 9 週 看護の国際協力活動②
- 第 10 週 看護の国際協力活動③
- 第 11 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割①
- 第 12 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割②
- 第 13 週 日本における民族の尊厳を守る看護のありかた
- 第 14 週 海外に居住する日本人に対する看護
- 第 15 週 多文化共生社会における看護職の役割

4. テキスト： レイニンガー看護論「文化ケアの多様性と普遍性」医学書院

5. 準備学習：課題を提示するので、準備すること

6. 成績評価の方法：

- ・授業中における討議への積極的参加、予習、プレゼンテーション 50点
 - ・最終レポート 50点
- 合 計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：

| | | | | | |
|---|-------------------------------|--------|------|--------------------|--------------|
| 授業科目名 | 看護技術科学論 | | | 担当教員： 紙屋 克子 | |
| 科目名(英語) | Nursing Scientific Technology | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 4~6 | 学科事務室 (非常勤講師控室) | 授業の前後 30 分ずつ |
| <p>1. 授業の概要</p> <p>社会の変化と医療・看護の潮流を概観し、医療の高度化、健康に対する社会の価値観の変化に対応し得る看護ケア質向上を目的として、専門的な看護実践能力としての「生活の再構築に向けた援助技術」について検討する。あわせて看護において Arts and Sciences と評価される看護技術の開発について講義と演習を通して討議する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生活と生活再構築にむけた援助技術とは何かがわかる。 2. バイオメカニズムに基づく看護援助技術を習得する。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 週 Orientation 第 2 週 看護技術概論 第 3 週 看護技術の変遷と技術の時代的意義 第 4 週 看護の専門性と看護技術 第 5 週 看護技術の経験知と経験則 第 6 週 看護学教育における生活支援技術の位置づけ 第 7 週 臨床看護領域における Nursing Biomechanics の位置づけ 第 8 週 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践 (1) 第 9 週 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践 (2) 第 10 週 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践 (3) 第 11 週 臨床看護における Nursing Biomechanics の発展 (1) 第 12 週 臨床看護における Nursing Biomechanics の発展 (2) 第 13 週 日常生活の再構築と看護技術 第 14 週 看護技術の実践と医療法 第 15 週 看護技術の課題と展望 <p>4. テキスト</p> <p>紙屋克子 ナーシング・バイオメカニクスに基づく自立のための生活援助技術 (第 3 版) ナーシングサイエンスアカデミー 2010</p> <p>5. 準備学習 レポートの提出</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>レポート 60 点 (評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)</p> <p>講義への参画度 40 点 (評価視点: 授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)</p> <p>合計 100 点満点で評価する。</p> <p>7. 履修の条件 特になし</p> <p>8. その他 特になし</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---------|------------------------------|--------|--------|------------------|-------------|
| 科目名 | 国際保健学 | | | 担当教員：玉城 英彦 | |
| 科目名(英語) | International Health Science | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 1 | 1 | 後期 | 2～3 | 看護学科事務室(非常勤講師控室) | 講義の前後 30分ずつ |

1. 授業の概要：

この科目は、発展途上国の人々の健康を阻害する諸要因を分析し、それを解決する為の方法を研究する国際保健学の基本を理解する。また国際協力による健康水準の向上や保健医療政策の具体例について、その現状や今後の課題を学習する。さらに、保健統計や医療統計など、現状分析に必要な統計学の知識と応用について学習する。おもに WHO の活動を通じて 国際保健活動について触れる。

2. 到達目標

- ②健康について学ぶ。
- ②WHO の組織と活動を理解する。
- ③わが国の ODA について学ぶ。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 健康とは
- 第3週 WHO の組織と活動
- 第4週 日本の ODA
- 第5週 顧みられない熱帯病
- 第6週 スリランカでの私たちの国際保健活動
- 第7週 健康権とは
- 第8週 まとめ

4. テキスト： 玉城英彦「世界へ翔ぶ—国連機関をめざすあなたへ」、溪流社 2009 年

参考文献： World Health Reports

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 20 点 (積極的な態度, 発表態度)
- ・終了レポートの内容 20 点 (各回のポイントを理解していること)
- ・試験 60 点 (正解率)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|--------|--------|------------|---|-------|---------|-------|--------|-------|-------------------|-------|------------------------|-------|---------------|-------|-----------------|-------|---------------------------|-------|-------------|-------|-----------------------|--------|------------------|--------|---------------------|--------|--------------------------------|--------|--------------------|--------|-------------------------------------|--------|-----------------------------|
| 科目名 | ヘルスプロモーション論 | | | 担当教員：高瀬 幸一 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名(英語) | Health Promotion | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 1 | 後期 | 2~3 | 研 203 (高瀬) | 授業の前後 30 分ずつ 火曜 3, 4 限 授業の前後 30 分ずつ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. 授業の概要：ヘルスプロモーション・ウェルネス理念の起こりと歴史的背景，健康観についての歴史的変遷，健康政策への活用と評価の視点を講じ，ヘルスプロモーション・ウェルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。さらに，運動生理学の観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究する。これらの基礎理論を用いて実際の看護の場におけるヘルスプロモーションを探究する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ヘルスプロモーション・ウェルネス理念について理解することができる。 (2) 健康観の歴史的変遷について理解することができる。 (3) 諸外国の健康政策の理解と健康政策立案の基本的能力を習得する。 (4) 世界と日本の健康に関する現状を理解することができる。 (5) 健康増進・抗加齢に関する生理学的知識を習得することができる。 (6) 健康増進に効果的な運動の実施法について理解することができる。 (7) 健康基礎理論を用いて看護の場におけるヘルスプロモーションを試行することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr><td>第 1 週</td><td>健康とその意義</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>健康観の変遷</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>ウェルネス理念の起こりと歴史的変遷</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>WHO のヘルスプロモーション・ムーブメント</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>健康政策の評価の視点と活用</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>健康政策立案の基本と地域づくり</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>沖縄県における健康問題の現状－長野県との比較から－</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>生理学からみた QOL</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>身体活動における生理学的メカニズムについて</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>生活習慣病予防と運動実践について</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>人間の保健行動と特性<個・集団・地域></td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>行動変容をサポートする健康教育，保健指導<個人・集団・地域></td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>健康教育とポピュレーションアプローチ</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>QOL 向上を目指したプリシード・プロシードモデルによる地域・行政活動</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>生活習慣病予防と医療費適正化－糖尿病を事例に考究する－</td></tr> </table> <p>4. テキスト：健康行動と健康教育－理論，研究，実践－，医学書院 4200 円 中原凱文ほか 健康科学としての運動生理学 文化書房博文社 2100 円 監訳高野順子他 ヘルスプロモーション実践の変革－新たな看護実践に挑む 日本看護協会出版会 4800 円 参考文献：身体活動の健康心理学，スチュワート J.H.ビドル，ナネット・ムツリ著，大修館書店 ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発－政策化・施策化のセンスと技術－，石井敏弘，他編，ライフ・サイエンス・センター，3,900 円</p> <p>5. 準備学習：十分な予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の資料準備と授業への参画度 (評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ) ・終了レポートの内容 (評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ) ・合計 <p>7. 履修の条件：特になし</p> <p>8. その他：</p> | | | | | | 第 1 週 | 健康とその意義 | 第 2 週 | 健康観の変遷 | 第 3 週 | ウェルネス理念の起こりと歴史的変遷 | 第 4 週 | WHO のヘルスプロモーション・ムーブメント | 第 5 週 | 健康政策の評価の視点と活用 | 第 6 週 | 健康政策立案の基本と地域づくり | 第 7 週 | 沖縄県における健康問題の現状－長野県との比較から－ | 第 8 週 | 生理学からみた QOL | 第 9 週 | 身体活動における生理学的メカニズムについて | 第 10 週 | 生活習慣病予防と運動実践について | 第 11 週 | 人間の保健行動と特性<個・集団・地域> | 第 12 週 | 行動変容をサポートする健康教育，保健指導<個人・集団・地域> | 第 13 週 | 健康教育とポピュレーションアプローチ | 第 14 週 | QOL 向上を目指したプリシード・プロシードモデルによる地域・行政活動 | 第 15 週 | 生活習慣病予防と医療費適正化－糖尿病を事例に考究する－ |
| 第 1 週 | 健康とその意義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 週 | 健康観の変遷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 週 | ウェルネス理念の起こりと歴史的変遷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 週 | WHO のヘルスプロモーション・ムーブメント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 5 週 | 健康政策の評価の視点と活用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 6 週 | 健康政策立案の基本と地域づくり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 7 週 | 沖縄県における健康問題の現状－長野県との比較から－ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 8 週 | 生理学からみた QOL | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 9 週 | 身体活動における生理学的メカニズムについて | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 10 週 | 生活習慣病予防と運動実践について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 11 週 | 人間の保健行動と特性<個・集団・地域> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 12 週 | 行動変容をサポートする健康教育，保健指導<個人・集団・地域> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 13 週 | 健康教育とポピュレーションアプローチ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 14 週 | QOL 向上を目指したプリシード・プロシードモデルによる地域・行政活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 15 週 | 生活習慣病予防と医療費適正化－糖尿病を事例に考究する－ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---------|---------------------------------|--------|--------|---|---|
| 科目名 | 包括的健康アセスメント | | | 担当教員：○稲垣 絹代・鈴木 啓子・藤内 美保 永田美和子 大城凌子 | |
| 科目名(英語) | Comprehensive Health Assessment | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 1 | 2 | 前期 | 2~3 | 看研 1 (稲垣) 看研 17 (鈴木) 看護学科事務室 (非常勤講師控室) (藤内) | 月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限 授業の前後 30分ずつ |

1. 授業の概要：

看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント (MSE : Mental Status Examination) を、病態生理学を事前あるいは同時履修を前提として、これらと看護診断を統合した講義、演習によって習得する。

2. 到達目標：

- ・身体面としてのフィジカル・アセスメントについて理解できる。
- ・心理社会面として心理社会的アセスメントについて理解できる。
- ・病態生理学と看護診断を統合した包括的健康アセスメントについて理解できる。

3. 授業の計画と内容

| | | | |
|--------|--------------------|--------------|-------------|
| 第 1 週 | コースオリエンテーション | ヘルスアセスメントの概念 | (稲垣絹代・藤内美保) |
| 第 2 週 | フィジカル・イグザミネーション | アセスメントの基本 | (藤内美保) |
| 第 3 週 | フィジカル・イグザミネーション | アセスメントの基本 | (藤内美保) |
| 第 4 週 | フィジカル・イグザミネーション | アセスメントの基本 | (藤内美保) |
| 第 5 週 | フィジカル・イグザミネーション | アセスメントの基本 | (藤内美保) |
| 第 6 週 | 心理社会的アセスメントの基本 | | (鈴木啓子) |
| 第 7 週 | 心理社会的アセスメントの基本 | | (鈴木啓子) |
| 第 8 週 | 家族機能のアセスメント | | (稲垣担当) |
| 第 9 週 | シュミレーターを用いた指導 | | (稲垣担当) |
| 第 10 週 | 模擬患者参加型演習 | | (担当者全員) |
| 第 11 週 | 模擬患者参加型演習 | | (担当者全員) |
| 第 12 週 | 臨地における実践的ヘルスアセスメント | | (担当者全員) |
| 第 13 週 | 臨地における実践的ヘルスアセスメント | | (担当者全員) |
| 第 14 週 | 臨地における実践的ヘルスアセスメント | | (担当者全員) |
| 第 15 週 | まとめ | | (稲垣絹代・藤内美保) |

4. テキスト： Lynn S.Bickley 著 メディカル・サイエンス・インターナショナルのベイツ診察法

Bates'Guide to Physical Examination and History taking 9th Edition

- 参考文献： 1. 野末聖香編著 (2004) 「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」 医歯薬出版株式会社
 2. G.W.Start et.al.(2005) "Principles and Practice of Psychiatric Nursing"8th edition,MOSBY.
 (安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第8版)
 3. 森山美知子編集「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院

5. 準備学習：事前に提示した資料に基づいた準備をして授業や演習に臨むこと。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 30点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ)
- ・試験 40点 (各単元の理解度、到達目標の充足度)
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：病態生理学をすでに履修か同時履修を前提とする。

8. その他：学外での臨地の演習も含むため、履修可能な学習条件を整えること。

| | | | | | |
|---------|-----------------|--------|--------|------------|-----------|
| 科目名 | 病態生理学 | | | 担当教員：小杉 忠誠 | |
| 科目名(英語) | Pathophysiology | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 後期 | 2～3 | | 木曜日 3限・4限 |

1. 授業の概要：

この授業では、臨床医学で問題となっている各種疾病を教材として、病態生理学に根拠を置いて進められている治療について学ぶ。

2. 到達目標：

授業の概要で述べたことによって、臨床看護の世界で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。すなわち自ら論理的な学習ができ、かつ知識が乏しいがゆえに不安を抱える患者やその家族が正しく病気の成り立ちを知り、判断できるよう適切なアドバイスを与えることができるようにする。すなわち、健康障害があっても、その影響をできるだけ少なくするにはたつきかける際の専門的判断の構築に役立つことを意図する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 病態生理学特論概要：生理学、病態生理学、治療学の関係性をいかにして理解するかを概説する。
- 第 2 週 恒常性維持における「感覚」の意義と感覚異常の起こるメカニズムを学ぶ。
- 第 3 週 神経による生体活動の調節のしくみと調節の異常による症候を理解する。
- 第 4 週 運動の異常を運動生理学、生活習慣病を中心にして学び、生活習慣病予防、血管病予防における運動の重要性を知る。
- 第 5 週 呼吸、循環の異常発現機序を理解し、病態把握の具体的方法を知る。それらの異常を是正する方策を理解する。
- 第 6 週 体液、電解質のバランスの恒常性維持機構の破綻発現機序を理解し、その破綻予防と是正の手段と方法を知る。
- 第 7 週 血液の生理的なたらきを理解し、血液の異常を把握する方法を知る。特に、血液幹細胞の移植、再生医療における将来的、現在の意義を強調的に理解する。
- 第 8 週 免疫の異常を液性免疫、細胞性免疫両者の接点的物質の異常により発現することを理解する。特に、アレルギー疾患、自己免疫疾患や免疫不全症の発現機序を理解する。
- 第 9 週 栄養状態の異常を摂食行動、食欲の観点から理解する。また、食物の消化・吸収の異常発現機序を理解するための栄養アセスメント、肥満、やせの把握法を知る。
- 第 10 週 糖質、脂質、蛋白質代謝を生体内エネルギー代謝の観点から理解する。代謝の異常が起こる機序とその症候について、先天性アミノ酸代謝異常症、核酸・ビタミン代謝の異常を知り、その対処法を学ぶ。
- 第 11 週 内分泌による生体機能の生理的調節のしくみを、内分泌による調節機能の破綻を通して理解する。
- 第 12 週 生殖の異常をエイジングの各期とその特徴から捉える。また、生殖の異常を染色体異常、ホルモンの異常から理解する。
- 第 13 週 症例提示（ケースレポート）（Ⅰ）：悪性腫瘍患者の症例を提示し、その症例の病態生理学を理解し、治療法を提示するのを目的とする。
- 第 14 週 症例提示（ケースレポート）（Ⅱ）：生活習慣病の症例を提示し、その症例の病態解析を行い、病態生理学的観点からその病因と治療法を討論するのを目的とする。
- 第 15 週 症例提示（ケースレポート）（Ⅲ）：認知症の症例を提示し、発症機序を中心にして、認知症の病態生理を明らかにすることを目的とする。

4. テキスト・参考文献

- ①人体機能生理学：杉晴夫，等（共著），南江堂（第4版），2004年
- ②標準生理学：本郷利憲，等（監修），医学書院（第6版），2005年
- ③からだの異常 病態生理学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ：北本清，等（共著），日本看護協会出版会，2003年
- ④疾病の成り立ちと回復の促進（第3巻，第4巻）疾病各論：下 正宗（編），医学書院，2006年
- ⑤Physiology and Pathophysiology of the heart (Third edition), Nicholas Sperelakis, Kluwer Academic Publishers (KAP), 1995
- ⑥Textbook of Medical Physiology, Guyton & Hall, 2006
- ⑦Clinical 生体機能学—生理学から症状がわかる—：當瀬規嗣，南山堂，2005
- ⑧Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance & Sue E. Huether, Mosby 1997

5. 準備学習：概論以外の各回の講義に臨む前に講義タイトルに関連する論文を1編読んできてレポートすること。

6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。

| | |
|------------------|--------|
| ・事前の資料準備と授業への参画度 | 30点 |
| ・終了レポートの内容 | 30点 |
| ・試験 | 40点 |
| ・合計 | 100点満点 |

7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。

8. その他

| | | | | | |
|---|----------------------|--------|--------|----------------------|--------------|
| 科目名 | やんばるの健康と長寿 | | | 担当教員：平良 一彦 | |
| 科目名(英語) | Long life in Yanbaru | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録予定人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 6 | 看護学科事務室 (非常勤講師控室) | 講義の前後 30 分ずつ |
| <p>1. 授業の概要：</p> <p>世界一の長寿の村と呼ばれた沖縄県大宜味村など、北部地域（やんばる）の人々の暮らしの成り立ちや、健康長寿を支える食生活、睡眠、生活行動や地域活動、特に結いマール（相互扶助）精神にもとづく、人々の暮らしについて深く理解する。あわせて今日の健康課題について討議を通して明らかにする。また、地域の保健医療機関の实情や保健医療行政の課題についても討論する。さらに地域の人々自身によるヘルスアップ活動や、住民主体による地域活性化の取り組みなど、専門職が住民とのパートナーシップに基づく健康づくりを実際のフィールドワークを通して学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①沖縄県北部地域（やんばる）の人々の暮らしと健康課題を明らかにできる。 ②住民とのパートナーシップの取り方がわかる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 コースガイダンス 第 2 週 沖縄県北部地域（やんばる）の人々の暮らしの理解（フィールドワーク 1） 第 3 週 沖縄県北部地域（やんばる）の人々の暮らしの理解（フィールドワーク 2） 第 4 週 戦後沖縄の保健医療行政の展開と推移（やんばるの生活環境の変遷を中心に） 第 5 週 戦後沖縄の保健医療行政の推移と展開（やんばるの疾病構造の変遷を中心に） 第 6 週 沖縄県北部地域（やんばる）の保健医療機関・行政の現状と課題 第 7 週 沖縄県北部地域（やんばる）の特色（心理社会的視点から） 第 8 週 長寿村（大宜味・今帰仁）の調査から見た北部地域の健康 第 9 週 沖縄県北部地域（やんばる）の長寿社会の現状（フィールドワーク 3） 第 10 週 沖縄県北部地域（やんばる）の長寿社会の現状（フィールドワーク 4） 第 11 週 沖縄県北部地域（やんばる）の食の変遷からみた健康 第 12 週 長寿者から学ぶ～ライフスタイルと健康 第 13 週 沖縄県北部地域（やんばる）の振興・開発と住民の健康 第 14 週 住民主体による地域活性化論 第 15 週 沖縄県北部地域（やんばる）の健康と農業と観光の融合～大宜味村の事例を通して～ 全体討論・まとめ</p> <p>4. テキスト： 特に指定しない 参考文献： エリザベス T アンダーソン 金川克子・早川和生監訳，コミュニティアズパートナー 医学書院</p> <p>5. 準備学習： 地域の元気長寿者宅への訪問。北部地域の市町村誌，保健所概要等に目を通しておくことが望ましい。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 30 点 ・レポートの内容 20 点 ・試験 40 点 ・合計 100 点満点 <p>7. 履修の条件： 特になし。全員の受講を歓迎する。</p> <p>8. その他：</p> <p>各受講生が保健・医療における地域特性を理解し、臨床現場において、地域住民により密着した看護を実践することを期待する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---------|-----------------------|--------|------|--------------|--------------|
| 科目名 | 英語講読 | | | 担当教員： 渡慶次 正則 | |
| 科目名(英語) | Reading English Texts | | | | |
| 単位数 | 受講年次 | 開講予定学期 | 登録人数 | 研究室 | オフィスアワー |
| 2 | 1 | 前期 | 5~6 | 512 | 講義の前後 30 分ずつ |

1. 授業の概要

英文で書かれた看護の専門誌・論文を講読する力を養うことを目的とする。そのために、一般の新聞、雑誌を読みながら、文法の解説も加えて基礎読解力を高めたうえで、専門誌の看護の英語論文を講読する。

2. 到達目標

新聞、雑誌を辞書なしで読み、おおまかな意味をつかむことができる。

看護の専門雑誌を辞書などを利用して読み、正確な意味をつかむことができる。

3. 授業の計画と内容

| | | |
|--------|------------------|-----------------------------------|
| 第 1 週 | 医療に関連した一般的な記事の講読 | The Japan times 等 |
| 第 2 週 | 医療に関連した一般的な記事の講読 | The Japan times 等 |
| 第 3 週 | 医療に関連した一般的な記事の講読 | The Japan times 等 |
| 第 4 週 | 医療に関連した一般的な記事の講読 | The Japan times 等 |
| 第 5 週 | 医療に関連した一般的な記事の講読 | The Japan times 等 |
| 第 6 週 | 看護の専門文献の講読 | American Journal of Nursing 等 |
| 第 7 週 | 看護の専門文献の講読 | American Journal of Nursing 等 |
| 第 8 週 | 看護の専門文献の講読 | American Journal of Nursing 等 |
| 第 9 週 | 看護の専門文献の講読 | International Council of Nurses 等 |
| 第 10 週 | 看護の専門文献の講読 | International Council of Nurses 等 |
| 第 11 週 | 看護の専門文献の講読 | International Council of Nurses 等 |
| 第 12 週 | 論文の抄録・本文の構成について | |
| 第 13 週 | 論文の抄録・本文の構成について | |
| 第 14 週 | 英語論文作成について | |
| 第 15 週 | 英語論文作成について | |

4. テキスト・参考文献

「看護英語読解 15 のポイント」園城寺康子他，メジカルビュー社

5. 準備学習：次回の課題として与えられた文献を読んで、予習をして授業に臨むこと。

6. 成績評価の方法

| | |
|------------|------|
| 授業中の貢献度 | 50 点 |
| レポート | 50 点 |
| 合計 100 点満点 | |

7. 履修の条件： 特になし

8. その他： 英語の読解力を高めるには、とにかく多くの英語の文章を読むことである。文法についても、しっかり確認しながら正確に英文を読むこと。